令和８年　第１３回

川西市教育委員会（定例会）議事録

川　西　市　教　育　委　員　会

○　会議日程・付議事件　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

○　出席者　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

○　説明のため出席を求めた者　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

○　議事録作成者　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

○　議案等審議結果　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

○　会議の顛末　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5～18

○　会議日程・付議事件

会議日時　　令和８年８月27日（木）　午後2時00分

場　　所　　川西市役所　４階　庁議室

日程番号	議案番号	付議事件	備考
1		議事録署名委員の選任	
2		前回議事録の承認	
3		教育委員の活動について	
4	議案　第23号	令和８年度版「川西の教育【改訂版】」の発行について	

○　出席者

教　育　長		石田　剛
委	員	治部　陽介
委	員	佐々木　歌織
委	員	澤野　幸司
委	員	金子　愛

○　説明のため出席を求めた者

教育推進部長	岩脇　茂樹
教育推進部理事 （教育保育・インクルーシブ推進担当）	株本　一男
教育推進部副部長	富本　幸二郎
教育推進部副部長 （教育保育・インクルーシブ推進担当）	三石　基文
教育総務課長	田中　秀弥

○　議事録作成者

教育総務課主事	石塚　太樹

○　議案等審議結果

議案番号	議案名	提出年月日	議決年月日	議決結果
議案第23号	令和８年度版「川西の教育【改訂版】」の発行について	8.8.27	8.8.27	可決

○　会議の顛末

［開会　午後2時00分］

石田教育長　それでは、ただいまより、令和８年第13回川西市教育委員会（定例会）を開会いたします。
初めに、「本日の出席者」を報告いたします。
本日は、全員出席であります。
佐々木委員がオンラインの出席でございます。
佐々木委員、入室確認をお願いします。

佐々木委員　佐々木です。入室しました。お願いします。

石田教育長　映像及び音声により、委員本人であること、また、相互間での映像及び音声の送受信が適正に行われていることを確認できました。
なお、事務局職員の出欠につきましては、事務局から報告をお願いいたします。

教育総務課長（田中）　本日の「事務局職員の出席」につきましてご報告いたします。
本日は、議題に関係する職員は全員出席でございます。
どうぞよろしくお願いいたします。

石田教育長　次に、本日の「議事日程」につきましては、配付しております議事日程表のとおりであります。
これより日程に入ります。
日程第１「議事録署名委員の選任」を行います。
教育長において、佐々木委員、澤野委員を指名いたします。
よろしくお願いいたします。
次に、日程第２「前回議事録の承認」ですが、事務局において調製し、第11回定例会及び第12回臨時会の議事録の写しをお手元に配付しておりますので、事務局から説明をお願いいたします。

教育総務課長（田中）　それでは、第11回定例会の議事録につきましてご説明いたします。
第11回定例会の議事録は、１ページに会議日程及び付議事件、２ページに出席者、３ページに説明のため出席を求めた者、４ページに議案等審議結果、５ページから議事録でございます。
署名委員は、治部委員と金子委員よりご署名をいただいております。
次に、第12回臨時会の議事録につきましては、１ページに会議日程及

び付議事件、２ページに出席者、３ページに説明のため出席を求めた者、４ページに議案等審議結果、５ページから議事録でございます。
署名委員は、金子委員と佐々木委員にご署名をいただいております。
説明は以上でございます。

石田教育長　説明は終わりました。
ただいまの説明について、質疑はございませんか。よろしいですか。
それでは、お諮りいたします。
第11回定例会及び第12回臨時会の議事録につきまして、これを承認することにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声）

石田教育長　異議なしと認めます。
よって、「第11回定例会及び第12回臨時会の議事録」につきましては、承認されました。
次に、日程第３「教育委員の活動について」であります。
事務局から報告をお願いいたします。

教育推進部長（岩脇）　それでは、７月分の教育委員の皆様の活動について報告いたします。
治部委員におかれましては、オンラインで開催された令和８年度川西市教育・保育研修会「学びの探究」第１部でプレゼン発表をしていただきました。
佐々木委員におかれましては、加茂小学校での教職員向けにこども人権の研修講師を務めていただきました。
金子委員におかれましては、西宮市で開催された阪神７市１町教育委員会連合会総会及び研修会、清和台地区説明会、東谷小学校での「児童と内田洋行、コクヨとの意見交流会」「未来の学校プロジェクト」、東谷中学校での「給食意見交換会」並びに、川西中学校での「生徒会交流会」にご参加いただきました。
澤野委員におかれましては、加茂こども園での「授業参観及び授業研究」に参加いただくとともに、加茂小学校・加茂こども園合同研修会にてご助言を行っていただきました。
金子委員、澤野委員におかれましては、川西中学校での「生徒との意見交流会」及び市役所で行われた「教育行政事務評価委員との懇談会」に参加いただきました。

治部委員、金子委員、澤野委員におかれましては、川西南中学校での「生徒との意見交流会」へ参加いただきました。
佐々木委員、金子委員におかれましては、文部科学省に訪問いただきました。
主なものではございますが、報告させていただきます。

石田教育長　それでは、治部委員、何か報告するようなことがありましたらお願いします。

治部委員　「学びの探究」を少しオンラインで見させていただきました。総合学習や、探究学習に関するテーマの深掘りが多くあったという印象です。探究学習、総合学習がどんどん進んでいくことが、僕は、インクルーシブ教育の形を作ると、個人的には信じている立場なので、この辺りが進んでいくことは、非常にうれしく思いながら見ていました。

石田教育長　ありがとうございます。
「学びの探究」は、金子委員は見られているのですか。見られていないのですか。

金子委員　はい。

石田教育長　「学びの探究」は、７月24日に行われたですけれども、今もありましたように、子ども主体の学びということで、探究的な学びについて、幼児教育・保育、小学校、中学校それぞれの職員がプレゼンする機会となりました。予定時間を大きくオーバーするほど各校園所のプレゼンが非常に飛躍的によくなって、しかも、教職員が非常に、誤解を招くかもしれませんけれど、楽しんで、意欲的に発表していたというのが印象的でした。非常に前向きに取り組んでいることが伝わってくるようなプレゼンテーションだったと思っています。きっと聞いている職員の皆さんも刺激を受けたのではないかと思います。
昼からのグループに分かれての分科会も、いろいろ具体的なテーマを作ってやっていますけれども、この「学びの探究」の担当者、チームですけれども、例年講師からお話を聞いてという形で進めていたのですけれど、今回は対面で、そして、それぞれの実践を交流し合うようなところに重点を置きたいということで、今回、あえて講師をお呼びせずにやってきたというところです。

私は、これも一つの形かなと思います。講演を聴いて何か学ぶということも大事ですけれど、やはり自分らの実践を通じて交流する、そのテーマについて講師から助言をいただくとかというのが、本来のある形と思いました。それぞれ見ていただいたらと思います。ありがとうございました。

佐々木委員、お願いします。

佐々木委員　７月の夏休み入る頃に加茂小学校の先生方向けに子どもの人権を話してくださいということで行ってきました。最初１時間と聞いていましたけれど、２時間くらい使ってくださっていいですよということで、じっくりグループワークをやりながら、学びのときを持てたのではないかと思っています。

あと、文部科学省の訪問といいますか、質問を持って事務局の方と一緒に行く機会を得ました。質問自体は「コミュニティスクール」と「外国人の児童生徒の支援について」という２つをメインで、質疑応答ということで聞かせていただきました。勉強になったのは、国がやることなのか、都道府県レベルの話なのかというところが、質問の中でも「それは県です。」だとかいうご指摘があったりして、私も大変勉強になりました。

石田教育長　ありがとうございます。

加茂小学校の研修で教職員はどんな感じでしたか。

佐々木委員　先生方が学年ごとに集まって座っていたので、お話しする内容は、憲法の話からこども基本法の法律レベルの話までざっとした後、実際に学校で起きている、困っている事柄を事前にいただいていたので、それを基にグループワークの課題などを作って、お話をすることができました。学校の課題に引き寄せた形で、人権について先生方が話す時間を持てたということで、先生方も多分、とても熱心に、こちらから「では、もう時間ですよ」って切り上げても、まだディスカッションが熱く繰り広げられるくらい、大変熱心にしてくださったと思っています。

石田教育長　ありがとうございました。

加茂小学校は、接続期のことで研修をして、かなり意欲的に、それぞれ発表された先生も含めてですけれど、学校全体、学ぶ意欲が高まってきたというところで、今回佐々木委員に行っていただいたというのは、

よかったのではないかと思います。
　また報告していただけたらと思います。
　文部科学省は、７月29日に訪問させていただきました。佐々木委員のみならず、金子委員も一緒に行っていただきましたけれど、どういう意見、感想でしょうか。

金子委員　　私も同行させていただきまして、お話を一緒に伺っていた中での感想ですけれど、文部科学省の方が、外国の児童生徒に対する日本語指導については、「どこの自治体ではこんなことをやっておられますよ。」とか、コミスクのことでは、今後、地域の人材を、「こういう人に入ってきてもらいたいと思っている。」とかっていうことをおっしゃっていたのですけれど、その制度っていうか提言を、教育長は川西としてどういう形にしていくのかっていう形で聞いておられたように感じて、自分たちの地域や川西でどうあるべきかを、そのいただいたことをヒントに考え続けていくのが教育行政の仕事と思って聞いていました。

石田教育長　　ありがとうございました。
　文部科学省に訪問するのは、２年ぐらい前に一度私も行かせていただきまして、いろいろ懇談しました。今回、佐々木委員、金子委員が参加していただいたことを非常にうれしく思っています。やはり教育委員として、一緒に国の動きを聞いていく、直接その任に当たっている方の話をして協議をしていくっていうことは、目に見えた成果というのはなかなか難しいのかもしれないけれども、そのすり合わせっていうのは大事だと思っています。テーマは、一つは学校運営協議会、コミュニティスクールについてということで、事前に担当課で集約してもらった課題みたいなものを出していただいきました。やはり一つは学校運営協議会の委員に若い世代をもう少し入れないといけないのではないかと。例えば大学生であるとか、卒業生であるとか、そういった若い、そして、地域について非常に関心を持っている若者が非常に増えている中で、その人たちを巻き込んでいくことが具体的な動きを作っていくときに役立つのではないかなという、一つあり方と思いました。たしかに、児童生徒、学校運営協議会の中にゲストとして入れるというのはあるのですけれど、委員自体にも若い世代を入れていくという考え方、大学生も、もしかしたらいいのではないかと思ったりはして、そういうご示唆があったのはよかったです。
　もう一つは、やはり外国にルーツを持つ児童生徒への支援、川西市も

喫緊に迫っているわけではないですけれど、ゆくゆくのことを考えたときに、どうしていくのかというのは大きな問題なので、ヒントをいただきに行った感じです。担当課長から幾つかご質問ありました。モデルっていうのも、外国にルーツを持つ児童生徒が多い地域と散在している地域とで、取組は違いますと言われていました。ただ、個人的な感想ですけれど、「国はここまでやっていますよ、あとは地方でやってください。」みたいな匂いがして、「人員はこれだけ配置しています。」「県にはこれだけ配置しています。」って言うだけ、もう少し入ってほしいと個人的には思いました。最後に、近い将来のことを考えて先に取り組んでおられることには、一応うちも協力したいと思いますということをいただけたので、またいろいろなアドバイスがいただけると思っています。担当副部長及び担当課長含めて６名で行かせていただきましたけれど、２時間弱でしたか、結構、意見を出し合って、私は興味深い時間だったと思っています。

長くなりました、ありがとうございます。

そうしたら、澤野委員、何か報告はありますでしょうか。

澤野委員　先ほど部長からもありましたように、７月１日に久しぶりに加茂こども園を参観させていただきました。やはりそこには、加茂小の先生方、校長先生はじめ、全員ではないですけれど、加茂小の先生方も参観されているということで、そういうお互いの授業を見合うということが当たり前のようにできているということがとてもよかったと思いました。終わりに、その授業参観した後に、意見交換というかフィードバックをしたのですけれど、一つやはり「あ、そうか」って思ったことが一つあって、多分１年前、この連携が始まった頃というのは、小学校から来られた先生が加茂こども園の授業参観したとき、保育を参観したときに、やはり環境のことだとか子どもたちがやっていること、内容について、先生たちの関わりとかそういったことを、いわゆる目で見て分かるようなことに意見の交流といいますか、感想を述べるのが中心でした。今回、先生方の授業を見て、小学校の先生方が意外と子どもの学び、内面的なものだとか、「なぜ、その子どもがそのような行動をしたのか。」、「何でこういったところをこだわっているのか。」みたいな所に興味関心を、子どもたちのそういった内面的なことに興味を持っておられるようなご質問なんかがあったことが、これはとてもいい傾向だなと思いながら、これが小学校での授業づくりにまた活かせるようになればいいのではないかなと思ったところでした。やはりこども園も、自分たちがコンプリ

ートしているものではなくて、日々子どもたちの保育について悩んでいるという、やはりそういうフィードバックが求めているところもあるのですけれど、やはりこども園はなかなかそういう時間がないので、ここは、やはり園長の力量と言いますか、そういう時間を先生方に提供している、その一つの方法として小学校の先生方の感想を聞くというのは、なかなか保育園の経営という意味では、園長の手腕が発揮されていると思ったところでした。午後から、加茂小学校に合同の、いわゆる今回の反省もしたのですが、結論から言うと、継続をしていって、人が入れ替わるにしても、この仕組み、出来上がった仕組みを継続していって少し広げていこうというところが話題になっていました。例えば、加茂こども園だけでなく加茂小に進学をしてくるいろいろな法人の保育園だとかこども園辺りとも連携ができるといいなということや、今度、川西南中校区でこういった幼保小の連携といいますか、こういった接続について、子どもたちの学びについて検証する機会があるということで、そういったところでも今回のことを少し話題にしながらやっていこうかという話にもなっていましたので、これを広めていくということが確認できたようなところです。まだまだ課題が多いとは思うのですけれど、少しずつ進んでいるのかなと思ったところでした。あとは、川西中学校と川西南中学校に、中学生との意見交換もさせてもらいました。やはり学校のカラーが出るということを改めて思ったところです。それぞれ先生方の関わりが、子どもの姿とか提案を通しながら見えてくると感じたところです。

あと、一つ、外部評価委員の方との協議については、実は、去年、私はその立場だったので、今回、逆転する立場で関わったのですけれど、やはりある意味、我々からすると当たり前と思っている教育委員の活動が、外部から見たらそういうふうに見えるということを改めて感じたところで、やはりこういう外部の方と我々自身がディスカッションするという、意見交換をするということは大事な機会だな、やはり年間、私たち自身も少しふかん的に今やっていることを考えていく時間というのが大事な時間と改めて思ったところです。

別件になって、この教育委員の仕事と別になるのですが、皆さんにお知らせしておきたいことがありまして、実は、うちの大学が前期と後期にセミナーをやっています。「教育政策トップリーダーセミナー」っていうセミナーで、教育政策に関する教育長対象にするセミナーですけれど、教育長に限っておりませんで、行政の方とか管理職とか、いろいろな方がご参加するのですが、神戸会場に、川西からも事務局の職員の方

と川西の管理職をやっている方が参加をいただいて、去年も管理職の方が参加されていたのですけれど、去年は非常に意見を言うのははばかられるみたいな、引いたような感じで参加に遠慮しているところがあったのですけれど、今年は非常に積極的に自分の学校の課題だとか、テーマに基づいていろいろなお話をされていました。そのセミナーにはいろいろな地域から、近畿だけではなくいろいろなところから教育長が４割程度参加するのですが、こういった外部のセミナーに積極的に事務局も含めて管理職の方が参加する雰囲気というのは、やはりいいなと感じたところでした。

石田教育長　ありがとうございました。

セミナーに関しては、自分自身も行っていたことがあるので、また教育長だけではなくて、事務局のメンバーもそうですし、校園所のメンバーでも意欲ある人は行ったら、大体２年単位で、１年目はマネジメントとか、２年目がリーダーシップ、それが交互にやられるので、私は非常に面白くって、それで大学院を選んだのですけれど、すごく今までの学びと違う、答えが一つであるものを見つけるというのではなくて、自分の傾向を知ったりとか、ほかの人のこだわりを聞いて交流したりとか、もちろんマネジメントやリーダーシップについて学ぶという機会で僕は若い世代でも結構受けてはる人もいているし、役職付きも改めてそういう外部の学びをするということが大事かなと思いました。ありがとうございます。

金子委員も教育行政事務評価委員という懇談会に参加していただきましたけれど、どんな感想でしたか。

金子委員　澤野先生がおっしゃってくださったのが、私もそのとおりだなと思って聞いていたところなのですけれど、教育委員会側の当たり前と外部から見たときの評価っていうのは、やはり一致しないのだなっていうのが、去年も少し思っていたのですけれど、今年もそう感じました。年に１回でも外部の方に見ていただくっていうのは、やはり大事なことであって、自分たちのことを客観的に見るとか、いいところをもっと褒めてもらい伸ばしてもらえるとてもいい機会だなと思いました。

石田教育長　ありがとうございました。

私は会議が入って、途中で退席をしてしまったので、前半部分しか参加できてなかったのですけれど、評価委員の方の１名が吹田の教育長職

務代理者ということで、ずっと川西も経年的に見ていただいていますし、この間、吹田とも意見交流会みたいなのして、それぞれの教育委員の立場で交流してっていうのは非常に大事だと。このやり方が川西市だけのものではなくて、取組のいい部分は交流したいという思いもあったし、もうひと方が兵教大の教授であるということもあって、また澤野先生とは違った目で見ていただけるということがあって、政策側が中心にこういう場を作ってくれていて、基本的には評価の記録も川西の教育に掲載していく形になりますので、第三者から見たときに川西市の取組がどうなのか、教育委員会の活動はどうなのかということを評価していただくのはありがたいと思いました。

それでは、金子委員、よろしくお願いします。

金子委員　前回も言ったかもしれないのですけれども、東谷小学校での意見交流会、「未来の教室」の意見交流会の中での、子どもたちの「責任を感じながら自分たちの意見も発表する。」っていう、主体的っていうか自立的な姿が、東谷小学校が取り組まれていた自由進度学習の成果の一つなのではないかなと思って、感動しながら見ていました。

あと、西宮市で開催された阪神７市１町の教育委員会連合会の研修会の部分では、西宮市が取り組まれている「医療連携」について、センター長の先生がご講演くださったのですけれども、いろいろな特性と言いますか、個性を持った子どもたちを公的なセンターが、医療っていう面から見るっていうのは、すごい心強いことだし、もし可能であったら川西でも広まっていくというか、少しチャレンジしてもいいのではないかなっていう感想を得ました。

石田教育長　ありがとうございました。

「未来の学び舎」ということで、多田中学校、それから、東谷小学校で関係業者も含めてですけれども、意見交流をしながら、子どもたちがプロジェクトチーム、かなり希望者が多かったと聞いていますけれど、そのプロジェクトチームが理念を出し合いながら交流し合うっていうのは、金子委員から報告をお聞きしていて、非常にいい取組だなと思っています。今度、実際にその設備を入れるプロポーザルに入っていくわけですけれど、何とかそのプロポーザルの様子を、逆に言うと意見を出していた子どもたちが見られるような環境ができないかなとは思っています。幸い、担当者が各業者にそのことを話したときに、業者が非常に喜ぶというか、驚くというか、こういうプレゼンを何度かしてきましたけ

れども、子どもたちが直接見るという、そういう場面は初めてなので、非常に興味深いですって言われていたのが、私もいいことやなと思っていて、もちろん選ぶ責任を子どもにっていうのは少し荷が重いかなと思うのですけれど、学ぶ機会として、こういうコンセプトのものを、どうそれぞれの業者がプレゼンしていくのかを、子どもたちが見て感想を持つということはすごい大事なことかなと思っていますので、どんなやり方になるかはまた協議しながらですけれど、できたらそういう学びの機会に結びつけていけたらいいかなと思っています。

私のほうですけれど、一つは澤野委員、金子委員も参加していただいたのですけれど、８月20、21と全県夏季教育委員会研修会ということで、１日目、澤野委員が参加していただいて、１日目、２日目両日共に金子委員、私という形で参加していただきました。

澤野委員、どうでしたか、１日目の講演聞いて。

澤野委員　１日目の最初の講話は部活動だったのですけれど、川西市の取組が進んでいるかなというのは改めて感じる機会でありました。対象となった兵庫県の連合会の中では、こういう話になるのだろうなと思いつつ、相対的に川西のありようっていうのを見ることができる機会になったと思います。

後半の幼保小の連携については、改めて僕とは違う専門的な視点での、いわゆる子どもの学びということで、非常に興味深い話を聞くことができたので、私自身も非常にいい機会になったなと感じました。

ありがとうございました。

石田教育長　金子委員、どうでしたか。

金子委員　３つのテーマでそれぞれご講演いただいて、３つ通して思ったのは、川西って、全部の取組が兵庫県の中でも早いし、完成というか、一旦一つ形になっていることがテーマになっているなっていう感想でした。

幼保小の架け橋教育の推進に向けてのご講演の中では、神戸大学の名誉教授の伊藤先生がお話しくださったのですけれど、就学前の保護者の方とか、就学後の保護者の方にも聞いていただきたいようなお話の内容でした。

２日目の不登校児童生徒への理解と支援の在り方についてっていうお話もとてもよくって、やまびこの郷の先生がお話しくださったのですけれども、一つ驚いたのは、川西では、不登校の子とか学校へ行きにくい

子、教室へ入りにくい子のための居場所っていうか行き先が、校内サポートルームであったり、セオリアであったり、いろいろあるのですけれど、そうではない、少し地方っていうか、兵庫県の川西から離れたところには、まだ整備されていないところもあるようで、「これからなのです。」っておっしゃっていたのが、私にとっては意外でした。

石田教育長　お二方とも急に振ったので、少し申し訳なかったのですけれど、私が３つの演題の中で興味を持ったのが、幼保小の架け橋教育の推進受けていて、１日目の２つ目の公演が非常に興味深かったです。架け橋って言っていたのですけれど、その前は接続期管理って言われていて、これは「小１プロブレム」を解決するためにもともと国が入れ始めたものだったのが、その本来のとこからさらに発展して「架け橋」という言い方になりました。これは、私は個人的に幼児教育・保育は一つ義務化って言いますか、多くの子どもたちがそれを受けている状況を踏まえてっていうニュアンスが強いのではないかと思いました。一番ぴんと自分の中で来たのが、架け橋期のプログラムで共通するのが、子ども主体の学び・遊びという言葉があって、これは、非常に私は、川西の方向性、間違っていないと思っています。今、幼児教育・保育の子ども主体の遊びから学校教育が学べることがあるのじゃないかっていうことで交流していますけれども、やはり幼児教育・保育のときの、そういう子ども主体の遊びの中で培われたものを、小学校低学年でどうつなげていくかということで言われていました。だから、担当課には少し話ししたのですけれど、架け橋期プログラムを作るのですけれども、あえて探究に絞ったようなプログラムを作れば、それが同時に架け橋になるのではないかなと思いました。

少し余談になるのですけれど、この伊藤先生はひょうごっ子幼保小の架け橋教育支援センター長ということで、神戸大の名誉教授だったのですけれど、実は私10年前に社会教育主事講習で神戸大学行ったときの先生で、ご挨拶行ったら向こうも覚えてくださっていて、「久しぶりですね」という話の中で、「もし、機会があれば、センター長として川西にまた来ていただけますか。」言うて、「よろこんでいかせていただきます。」ということなので、また交流を深めていけたらなと思っていますので、よろしくお願いします。

長くなりましたけれど、あと、８月19日に初任者研修がありまして、人数はすごく少なくて15人ぐらいでした。幼保小中特別支援入れて、新任の子が15人という形でしたけれど、一つ印象的なのは、民間の幼児教

育・保育施設から、４人ぐらいでしたか、送ってきてくれはるのですよね。非常に定着してきて、そうやって民間の初任者も参加できるような形になってきているのが、もう少し広がっていけばいいなと思ったのが一点です。

もう一点は、初任者であるにもかかわらず、結構、子ども主体っていうことを言葉に出して言っている職員が多くて、学校園所の中でこういう言葉が定着してきていると思って、すごくうれしく思いました。「悩みは何ですか」って聞いたときに、「子ども主体の教育、授業をどのように展開するのかすごい悩んでいます。」とか、保育でもそういう話が出ていて、表面的ではなくて少しずつ広がってきている、深まってきているというのはうれしかったかなと思います。

長くなりましたけれど、報告については以上とします。

それでは、日程第４、議案第23号「令和８年度版「川西の教育【改訂版】」の発行について」であります。

事務局から説明をお願いします。

教育推進部副部長（富本）

それでは、議案第23号「令和８年度版「川西の教育【改訂版】」の発行について」ご説明申し上げます。

議案書３ページをお開き願います。

本案は令和８年度版「川西の教育【改訂版】」について川西市教育委員会事務処理規則第10条第１号の規定により議決を求めるものであります。

議案書４ページをお開きください。

本市では、教育委員会の基本的な方針は総合計画で定めておりますが、教育行政を進めていく上での具体的な内容につきましては、この「川西の教育」に明示することとしています。

令和８年度版「川西の教育」については、令和８年４月に発行しておりますが、令和７年度の主な取組とその評価を追記し、令和８年度版「川西の教育【改訂版】」として発行するものになります。

もう一つ、資料をご覧ください。

改正箇所につきましては、令和８年度版「川西の教育【改訂版】」の11ページから14ページになります。議案書のページ数で言いますと16ページ以降という形になります。今年度４月に発行した令和８年度版「川西の教育」に、「令和７年度の主な取組と外部有識者からの評価」として、令和７年度教育行政事務事業評価において、外部評価委員の方からいただいたコメントを追記しております。

説明は以上です。
よろしくご審議賜りますようお願いいたします。

石田教育長　説明は終わりました。
何か質問等、意見はございますでしょうか。
教育大綱に紐づいたもので、毎年度アクションプランということで、この下にクエストとクエストレポートが紐づいているという形になります。大きな取組については、「川西の教育」にまとめて、第三者評価についてもここに掲載をしているところです。
何かありますでしょうか。よろしいですか。
一応、先ほどお話のありました評価委員との意見交換会についても19ページに載せていますので、こういうような意見交流がされたということで、またご参照いただけたらと思っています。
毎年のものではありますけれど、非常に大事なものでありますし、川西の教育は数年前から形を変えて、こういう形で、アクションプランという形で出しています。外部から来られる方であるとか、学校現場、園所現場も含めてですけれど、きちっと配布して、自分たちの進むべき方向性とかベクトルを考える一つの羅針盤になればいいと思っているところです。
よろしいでしょうか。
治部委員。

治部委員　前回の協議会のときに、複数のトピックについて、いろいろ質問させていただきました。キッズプレイスの役割とか放課後育成クラブとのすみ分け、給食の話とか、学校の在り方や、インクルーシブ教育など、様々な観点で議論が進んでいるという印象でした。

石田教育長　ありがとうございます。
先ほど治部委員からもありましたが、協議会でかなり意見交流したところですけれども、よろしいですか。
それでは、お諮りいたします。
議案第23号につきまして、これを可決することにご異議ございませんか。
（「異議なし」の声）

石田教育長　異議なしと認めます。

よって、議案第23号につきましては可決されました。

以上で、本日の議事は全て終了いたしました。

次回は９月16日水曜日、午後２時から庁議室において定例会を開催予定としています。

これをもちまして、令和８年第13回川西市教育委員会定例会を閉会いたします。

お疲れさまでした。

［閉会　午後2時42分］

以上会議の事項を記録し、相違ないことを認めましたので、ここに署名いたします。

令和８年８月２７日

署名委員　　佐々木　歌織　　㊞

澤野　幸司　　㊞